

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルドハート伊都キャンパス			
○保護者評価実施期間	R7年11月20日 ~ R7年12月13日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24名	(回答者数)	15名
○従業者評価実施期間	R7年11月15日 ~ R7年11月29日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数)	8名
○事業者向け自己評価表作成日	R8年1月29日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども達が「楽しい」「面白い」と思ってもらえるようなイベントを毎月考え方提供している。	イベントの内容が固定化されないよう、日々職員間で話し合いを行い、イベントの内容を決めている。	その時の子どもの様子を把握し、子どもの特性に合わせた活動内容の見直しを図る。
2	集団療育だけではなく、個別での支援も行なえている。	個々の課題に取り組む時間を設け、子ども達の苦手としている部分を取り除けるよう取り組んでいる。	集団の中での活動や個人活動など、子ども達の成長に繋がるよう、様々な経験ができる場の提供を行っていく。
3	子ども達の日頃の様子などを保護者様にお伝えし、情報共有ができる。	保護者様にハートリンク・電話・送迎時など様々な方法でお子様の様子を伝えている。	職員間のコミュニケーションを密に行い、子ども達の様子を保護者様に伝えることができるよう努める。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子ども達への声のかけ方・接し方での配慮不足。	指導管理不足。	<ul style="list-style-type: none"> ・研修や職員会議などを取り入れ、職員一人ひとりの支援力向上を図る。 ・職員間で日々の支援を見直し、より良い支援が提供できるよう取り組んでいく。
2	事業所内の様子が保護者様に知られていない。	保護者様に事業所内を見てもらう機会が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> ・面談時など、保護者様が事業所に来られた際、事業内を案内し見学もらう。 ・保護者様がいつでもお子様の様子や事業所内を見られるような取り組みを検討していく。
3	地域のこどもと交流する機会が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ロードワークや公共の施設などの利用で地域の子どもに会うこともあるが、交流を目的にしていないこともあり、挨拶程度の交流になっていた。 ・地域の子ども達と交流できる公園などが近くにない。 ・感染症や安全面を考え交流が遠のいている。 	どのような交流方法・場所などがあるか検討し、交流できる機会を模索していく。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	チャイルドハート伊都キャンパス	公表日	R8年2月15日
環境・体制整備	チェック項目	はい	いいえ
	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	1
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8	
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	4
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	8	
業務改善	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8	
	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	3
適切な支援	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8	
	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8	
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8			
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	8			
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8			
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7	1		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	2	※該当者なし	今まで該当者がいなかったたが、障害福祉サービス事業所を利用する可能性もあるため、情報収集を行っていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7	1		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	7	1	地域のお祭り・公園・公共施設を利用する機会を設けている。	積極的な交流は行っていないため、どのような交流方法があるか検討していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	8			
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレンツ・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	2	保護者会を年2回開催している。	保護者会は開催しているが、研修などの機会は設けていないため、検討していく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8			

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8			
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	5		どのような形で地域と交流が図れるのか検討していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	2	※該当者なし	保護者様に契約時にアレルギーについて確認しているが、定期的な確認を行う。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8			
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8			